

E Z - W I N総合評価シート 2020.4.12 阪神11R G1 桜花賞 芝1600外 15:40 想定RP指数48-52

枠番	馬番	馬名	性別	負担重	予想人気	調教偏差値S	調教偏差値A	パターン評価☆	自己最高値更新	前走比偏差値up	中間調教評価	脚質前走	脚質2前	脚質3前	血統・人気勝率	血統・人気複率	血統複勝回収値	前距離複率	騎手	調教師	前走不利	最高補正指数		RP指数好走レンジ		総合評価点数
1	1	ナイントゥファイブ	牝3	55	14	C						2.9	5.6	2.3	5	26	15				**	88.8	43.4	53.2	30	
1	2	チェーンオブラブ	牝3	55	17	C						8.7	11.1	12.1	0	3	5					88.4	53.3	57.7	15	
2	3	スマイルカナ	牝3	55	16							5.7	1.4	1.4	0	2	5					89.6	51.1	55.3	17	
2	4	サンクテュエル	牝3	55	7	D				C		3.1	2.2	2.1	17	35	32		\$	\$		91.2	52.1	62.3	39	
3	5	マルターズディオサ	牝3	55	4							3.6	4.4	6.1	9	26	32	\$	\$			90.7	46.3	64.4	29	
3	6	ウーマンズハート	牝3	55	10	D						10.3	3.7	7.1	3	19	23				**	89.3	63.8	70.4	26	
4	7	ヒルノマリブ	牝3	55	12	C				C		3.2	4.1	12.2	0	33	15					88.7	55.3	57.8	24	
4	8	リアアメリア	牝3	55	3							14.3	8.1	5.1	17	35	32				**	85.9	58.3	62.5	32	
5	9	デアリングタクト	牝3	55	2							9.1	5.1		19	75	58					91.6	55.2	58.4	27	
5	10	フィオリキアリ	牝3	55	15							12.1	9.1	8.2	11	25	23					87.1	52.8	64.1	31	
6	11	クラヴァシュドール	牝3	55	6							4.3	9.2	5.1	11	37	32					91.6	48	62.9	35	
6	12	インターミッション	牝3	55	13							6.3	3.8	2.3	7	16	23		\$	**		88.1	47.9	55.5	34	
7	13	マジックキャッスル	牝3	55	8							12.1	11.1	2.3	7	16	23	\$	\$			91.0	50.4	58.9	39	
7	14	ミヤマザクラ	牝3	55	5	B				C		2.4	4.2	8.1	17	35	32	\$				90.0	50.2	55.4	39	
7	15	ヤマカツマーメイド	牝3	55	11	A						5.3	8.4	5.7	2	12	15	\$	\$	**		88.4	44.6	52	31	
8	16	ケープコッド	牝3	55	18							6.11	8.2	9.6	0	8	6					87.9	—	—	19	
8	17	レシステンシア	牝3	55	1	減				S		1.7	1.1	2.3	27	68	58		\$			92.6	48	54	41	
8	18	エーボス	牝3	55	9					D		10.1	1.7	6.4	2	10	15					89.1	48.1	54.6	19	

EZ-WINの総合評価点数1位は⑰レシステンシア

桜花賞性は最年長記録・令和初の桜花賞制覇など記録が掛かる武会長の手綱。

その会長が跨った最終追切は、暴走か？と思うようなハイラップを刻んで

結局ラスト1Fでバテて大きく減速してしまうと言う内容の追切でしたな・・・

EZ-WINの脚質欄は緑系が大繁殖しておる「前掛かり」のメンバー構成。

展開はミドルからハイペースとなりましょう。

前走は、ペースを落として逃げ、後続に速い上りを使われての敗戦で、

飛ばして行って、後続に脚を溜めさせずに押し切るのが

現状のレシステンシアの強みではございましょうが、

過去10年の桜花賞で、ミドルペース以上の速いペースで

逃げ切った馬は1頭も居りませんな。

特に雨馬場になると、前に行くのはバテるリスクと隣り合わせ。

勝ち馬を探すならば、持続力に優れたエピファネイア産駒の

⑨デアリングタクトが有力でございましょうか。

あとは、母系にサドラーズウエルズを持つディープ産駒

④サンクチュエール(ルメール殿)も優勝候補の一角。

しかしそれでは馬券的に面白みに欠けますれば

本命は5人気以下の馬から選びます。

2歳重賞のアルテミスで、後に朝日杯を楽勝したサリオスに
0秒2差で2着に食い込んだハーツクライ産駒。

⑩クラヴァシュドールが本命です。

ハーツクライ自体が持久力に富むトニービンを母系に持つ種牡馬。

また、母父のジャイアンツコースウエイは、

母系にタフな馬場・展開に強いレッドゴット系の

ブラッシンググループを持つ種牡馬でございますな。

自身は米国の大種牡馬ストームキャットの直仔ながら

欧州の G1 を6勝したタフガイでございます。

ちなみに国別で分類すると「欧州型」になります。

高速上りが出る馬場よりも、むしろ時計が掛かる

馬場の方が合うと、拙者は勝手に思い込んでおります。

イメージとしてはレーヌミノルが勝った

2017年の桜花賞でございますな。

ハーツクライ産駒のリスグラシューが猛然と追込み

1人気のソウルスターリングを捉えて2着したことを思い出しますなあ。

